国語科指導案

授業学級：第2学年ろ組　38名

授業者：千野拓真

1　**単元名**

登場人物の行動をくわしく想像し、お家の方にオーディオブックをプレゼントしよう。

（教材名：「お手紙」アーノルド＝ローベル 作 / 三木 卓 訳）〔全 10 時間中 第 6 時〕

3　**単元計画（全 10 時間）**

【単元の全体構想と流れ】

次 / 時	学習課題・活動	かえるくん・がまくんの行動と読みの着眼点	音読・表現へのつなぎ
第 1 次 (1 時)	【出合う・通読】 全文通読と単元課題の設定	全文を通読し、登場人物のしたことやいったことを捉え、物語の内容をつかむ。	地の文と会話文を分けながら音読し、物語全体のリズムをつかみ、お家の人に、オーディオブックをプレゼントすることを楽しみにする。
第 2 次 (第2時)	【場面1】 悲しさの共有から、行動を起こす	「ふたりともかなしい気分」でいるがまくんと、寄り添って共に悲しむかえるくんの行動を捉える。 「ぼく、もう帰らなくっちゃ、がまくん・・・」	悲しい気持ちで座っている二人の行動から、悲しい気持ちとがまんくんの気持ちに寄り添う優しさを捉え、かえるくんのセリフに印をつけて、読み方の工夫をする。（★ICT 活用）
第 2 次 (第3時)	【場面2】 行動を起こす	かたつむりくんにお手紙を届けることをたのんだ行動から、がまくんを喜ばせようとするかえるくんを読み取る。	なぜ、かたつむりくんに頼んだのかを考えることで、かたつむりくんの確実に仕事を成し遂げてくれるまじめな性格、行動による関係性を感じ取る。
第 2 次 (第4時)	【場面3】 対照的な二人	投げやりながまくんと、「なんども窓の外を見る」早く手紙が来て欲しいかえるくんの対照的な行動に着目する。	窓を見るかえるくんの視線や「間（ま）」を意識して「きょうは、だれかきみに、お手紙くれるかもしれないよ。」を表現する。（★ICT 活用）
第 2 次 (第5時) ★本時	【場面4】 決定的な台詞	「だって、ぼくが、君に お手紙出したんだもの」に着目。内緒を明かしてでも励ましたいかえるくんの葛藤を深掘りする。	思わず明かしてしまった感情を、ピンクの線で印をつけ、温かくはっきりした声と「間」で表現する（★ICT 活用）。
第 2 次 (第6時)	【場面5】 感動と納得	手紙の内容（「きみのしんゆう」）を知ったがまくんの「ああ。」に込められた驚きと感動を捉える。	1 場面のため息の「ああ」と 4 場面の感動の「ああ」の声色の違いを工夫する。（★ICT 活用）
第 2 次 (第7時)	【場面6】 友情の深まりの理解と自分の経験とのつながり	「とてもしあわせな気持ち」で待つ二人を描き、1 場面との対比から友情が深まったことをを捉える。	登場人物に手紙を書く活動を通じて、自分の経験と合わせて、登場人物の行動を想像する。
第 2 次 (第8時)	【まとめ①】 友だちと、手紙を読み合う	友だちの書いた、手紙をお互いに読み合うことで、がまくんとかえるくんが二人で待つ時間の良さに気づく。	がまくんとかえるくんの 2 人の友情がより深まったことを理解し、自分が担当したい場面や役割を決めだす。
第 3 次 (9～10 時)	【まとめ②】 音読の発表と相互評価	場面ごとにグループで役割を決め、読み方や間を工夫して音読を発表・相互評価する。	お家の方へのオーディオブックとして、音読し、全単元の学びを振り返り高め合う。

展開（第5時 / 全 10 時間）

主眼 かえるくんとがまくんの行動や台詞に着目し、場面理解をしてきた子ども達が、タブレット端末の録音機能（ICT）を活用して自分の読み方を確かめ、友達と聞き合い・意見交換を重ねることで、登場人物の心情に合った自分らしい音読表現の工夫を見つけることができる。

展開	学習活動	**学習活動および予想される児童の反応**	**指導上の留意点・評価 ★ICT 活用**
導入 5分	1 前時の学習を振り返り、本時の課題をつかむ。 2 本時のめあてを確認する。	C：かえるくんは、がまくんをおどろかせたくて内緒にして手紙を待っていたんだね。 C：でも、がまくんは「もう寝る」と諦めて悲しんでいるよ。 C：今日は、第4場面だね。どこを読むのかな。	○前時までの学習掲示（掲示物・挿絵）を活用し、かえるくんの「内緒にしておきたい気持ち」を確認する。 ○めあてを明記し、児童が本時の学習の見通しをもてるようにする。
	（めあて）**かえるくんの「だって、ぼくが、君に お手紙出したんだもの」は、どのように言ったのだろう？**		
展開 12 分	3 4 場面を読み、かえるくんの行動と台詞に着目する。	C：かえるくんは手紙を出したことを本当は内緒にしたかったと思う。 C：がまくんが、悲しそうだから言っちゃったんだと思う。 C:お手紙は、まだ届いていないから、本当に言っていいか、迷っているかもしれない。 C：がまくんを励ましたくて、思わず言ってしまったと思う。 C：でも、かえるくんの気持ちは、どこにも書いていないから、分からないな。 C：だって、きみに、って、点がたくさんあるな。どうやって読めばいいかな。 C：早く読みたいな。	○「内緒にしたい優しさ」と「今すぐ目の前で励ましたい優しさ」の二つに気付けるよう、かえるくんとがまくんの行動を見つけ、葛藤する気持ちを対比して視覚的に黒板にまとめていく。 ○二つの気持ちを対比させ、何色の線を引くと良いかを考えさせる。
	（学習課題）**友だちと工夫を伝えあいながら、「だって、ぼくが、君にお手紙出したんだもの」を音読をしてみよう。**		
展開 18 分	4 かえるくんの思いが伝わる音読の仕方を検討し、タブレット（★ICT）で録音して自分の読みを確かめる。	C：秘密をいってしまう言葉だから、少し大きめでハッキリした声で読もう。 C：がまくんを励ましたいから、優しく読みたいな。 C：がまくんは、迷っているから、「だって」の前に少し間（ま）を空けるのもいいかもしれない、 C：がまくんを喜ばせたいから、大きな声で読もうかな。 対話の工夫として、友だちの録音を聞いてもよいことを伝え、聞いた後には、友だちの工夫の良さを伝えあうことを約束とする。	★【ICT 活用の工夫】 CANVA の録音機能を使い、自分の音読を客観的に聴くことで、「思いに合った声になっているか」を確かめさせる。 ○録音しやすいように、少人数に分けた教室に移動するようにする。 ○それぞれの教室を回り、声の大きさやスピードなどの工夫により、気持ちに合った音読ができている児童を確認しておく。
展開 6分	5 全体で音読の工夫や読み深めたことを共有する。	C：○○さんは「だって」の前に息を吸って間を入れていて、かえるくんが迷った感じがすごく伝わった。 C：優しい声は、がまくんが元気になる読み方でいいね。 C：○○さんのゆっくり読む読み方が、励ましている感じが伝わってくるね。	○児童のタブレットをスピーカーにつないで、異なる音読表現（間を重視した読み、温かいトーンを重視した読み等）を全体で共有し、自分の音読と比較させる。 ○かえるくんの行動と音読表現の結びつきを価値付けるようにする。
終末 4 分	6 本時の学習を振り返りシートにまとめる。	C：かえるくんはがまくんの笑顔が見たくて言ってしまったのだと分かった。 C：最初は、元気に読もうと思ったけれど、最後は励ます思いを込めて少し優しく読むことに変えた。 C：優しい気持ちの読み方が出来て嬉しかった。 C：友だちのも、もっと聞いてみたいな。	○「最初の読み」と「友達と話し合った後のまとめの音読」の変化や、その理由（かえるくんの気持ち）を振り返りシートに記述させる。 ○次時は、これを聞いたがまくんの「ああ。」に込められた感動を読み深めることを伝える。

5　見ていただきたいこと

（1）行動と心情の読み深め

かえるくんの「だって、ぼくが君にお手紙出したんだもの」という台詞を、行動に着目させることで、内緒にしておきたい優しさと今すぐ励ましたい葛藤などを、児童が根拠をもって深く捉えることができていたか。

（2）ICT（タブレット録音）の有効性

タブレット録音機能を活用して自分の音読を客観的に聴き直し、アドバイスを交わし合う活動が、児童が安心して表現でき、また、読みの変容につながっていたか。

（3）読解から音読表現へのつなぎ

行動の読み取りが、単なる感想で終わらず、声のトーン・速さ・間（ま）の工夫へ効果的につなげられていたか。